

フューチャースクール推進事業の実践校における活用事例

ーラインズeライブラリアドバンス と 小学館デジタルドリルシステムー

ラインズ株式会社 文教グループ

<http://ela.education.ne.jp/support/>

キーワード：フューチャースクール、タブレットPC、手書き学習、教科学習、学力向上

1. はじめに

2010年10月からスタートしたフューチャースクール推進事業。全国で10の小学校がタブレットPCをコミュニケーションツールとして利活用し、お互いに学び合い教え合う「協働教育」の実践研究を行っています。

ラインズ商品は西日本地域の3小学校に導入いただいておりますが、今回はその中の1校をご紹介します。

2. 広島市立藤の木小学校

(1) 規模

児童数273人。教員数20人。全10学級。

1年生2クラス、2年生1クラス、3年生2クラス、4年生2クラス、5年生1クラス、6年生2クラス。

(2) 整備状況

- ・タブレットPC（全児童・全教員に1台ずつ）
- ・インタラクティブ・ホワイト・ボード（各教室）
- ・授業支援システム（ブラックアウト/ロック/アンケート/発表/先生提示/児童提示 等）

3. ラインズeライブラリアドバンス

～豊富な教材をインターネット配信するサービス～

(1) 概要

■基本サービス

- ・小中60,000問の教材が理解度に応じて自動構成
- ・各学年、教科、単元、教科書に対応
- ・「りれき管理機能」で振り返り学習をサポート
- ・各社の教科書ページから教材検索が可能
- ・電子黒板を効果的に活かす提示教材も多数収録
- ・「連絡メール」「家庭学習」の機能を標準搭載

■オプションコンテンツ

- ・図鑑、百科事典、写真資料集
- ・小学校プリント（単元別・漢字計算・はってん 等）
- ・中学校プリント（単元別・高校入試過去問DB 等）

(2) 活用事例

《チャレンジタイム》

基礎学力の向上に力を入れている藤の木小学校では、1時間目が始まる前の15分間を「チャレンジタイム」として、国語・算数・英語の学習をしています。

月・水・金のチャレンジタイムでは、eライブラリアドバンスを利用しており、発展問題や振り返り問題など、子どもたちがそれぞれ自分の課題・進度に合わせて学習しています。

「苦手だった算数が好きになった」「たくさんの問題を集中してこなせるようになった」などの嬉しい声。

15分という限られた時間を有効に利用するために、eライブラリアドバンスのドリルが活躍しています。

4. 小学館デジタルドリルシステム

～手書き文字を認識判定するタブレット専用教材～

(1) 概要

■特徴

- ・小学校の漢字練習、計算練習、理科、社会を収録
- ・漢字の筆順、文字のハネなどを認識・判定
- ・間違えた問題を抽出してプリントアウトできる
- ・先生機能で「宿題プリント」の作成も可能

■収録数

- ・漢字5,200問（漢字練習、音読、書き取り、熟語）
- ・計算3,400問（計算練習・解説、計算チャレンジ）
- ・理科740問（音読、書き取り、一問一答クイズ）
- ・社会1,000問（人物、年号暗唱、一問一答クイズ）

(2) 活用事例

《習熟学習タイム》

先生から与えられた課題が早く終わった児童は、机からタブレットPCを取り出して、漢字学習に取り組みます。パソコンが身近にあるため、隙間時間を有効に使えます。

筆順や字形に注意しながら集中して取り組むため、短時間でも漢字の習得に効果てき面なのだそうです。

5. 今後の展開

(1) 家庭学習サービスで

学校と保護者との連携による「学び」の実現。

(2) ステープラ（発表ツール）で

思考力・判断力・表現力を高める協働学習。などを計画しています。

ラインズは「未来型の教育」を応援しています！



写真1 eライブラリのドリル画面



写真2 デジタルドリルシステム



写真3 eライブラリのステープラ